

## < 目 次 >

- |   |                            |            |       |
|---|----------------------------|------------|-------|
| 1 | APLAが防災功労者防災担当大臣表彰を受賞      | 代表         | 伊藤 善之 |
| 2 | 愛知県知事・防災局長との懇談会報告          | 本部広報       | 藤井 芳弘 |
| 3 | あいち防災リーダー会一泊研修旅行記          | 本部広報       | 藤井 芳弘 |
| 4 | 一宮聾学校防災訓練に参加して             | 一宮支部       | 石垣 辰夫 |
| 5 | 清須市総合防災訓練                  | 清須支部       | 吉田 陽一 |
| 6 | 震災に備えて 北名古屋市総合防災訓練         | 北名古屋支部     | 坂口 紀生 |
| 7 | 扶桑町防災訓練                    | 扶桑支部       | 丸山 豊  |
| 8 | 防災よもやま話 No.37 地盤に関わる災害について | 名古屋大学大学院教授 | 福和 伸夫 |
| 9 | お知らせ・掲示板                   |            |       |

## 1 APLAが防災功労者防災担当大臣表彰を受賞しました ブロック代表 伊藤 善之

この度 平成24年度防災功労者防災担当大臣表彰を「あいち防災リーダー会」が愛知県防災局危機管理課の推薦で受賞することになり、その表彰式が9月11日（火）午後東京都千代田区のホテルグランドアーク半蔵門で行われ、当会から早川会長と藤井広報部長兩名が出席しました。



APLA 10年にわたる会員全員の継続的な防災・減災活動を通じて、地域防災力の向上に貢献したことにご評価をいただいたものです。この賞は、現在の677名のみならず、この10年間にご参加ご支援いただいた方々全員の賞であると思います。

## 2 愛知県知事・防災局長との懇談会報告

広報部長 藤井 芳宏

6月7日午後愛知県庁において、大村県知事表敬訪問並びに小林防災局長・樋口防災局次長・夏目危機管理課長らと懇談会を行った。

大村県知事表敬訪問では、早川会長より当会が670名程の会員がいて、防災リーダーをもっと増員するための活動をしながら、自主防災会活動の活性化や県民への防災啓発のための活動を実施している旨説明があった。小林防災局長より愛知県と当会との「防災啓発活動に関する覚書」を調印したことの説明があった。さらに当会より「防災・減災カレッジ」への協賛金5万円寄付があったとの説明もあった。

県知事より、覚書締結並びに「防災・減災カレッジ」への協賛金への謝辞があった。さらに県内の各種イベントで当会のパネル展示やロープワークなど活動振りを拝見しており、今後も地域活動でリーダーシップを発揮していただくよう激励のお言葉があった。



小林防災局長らとの懇談会では、まず「防災啓発活動に関する覚書」の調印を行った  
その後、早川会長より防災リーダーフォローアップ講座や防災リーダー養成塾、地域防災啓発活動学校啓発活動などを実施している旨説明があった。県には、防災リーダー養成塾等の共催支援や応募など広報をご協力願いたいとの要請も行った。県からも極力協力する旨回答があった。さらに出席者から、地域活動において行政側の防災活動への支援が消極的であるとの指摘や学校防災啓発でのよい事例、近隣の市町村が防災リーダー養成講座などを開催してよい競争が生まれているとの紹介もあった。



この日に締結した「防災啓発活動に関する覚書」の骨子は以下のとおりである。

南海トラフの巨大地震、伊勢湾台風並みの台風等による大規模災害に備えて、愛知県の地域防災力を高めるため、お互いが実施する防災啓発活動について、相互に連携を図りながら協力して行い、その活動を効果的に推進することにより、県民の防災意識を高め、地域防災力の向上に資することを目的としている。その具体的な内容として

- (1) 防災知識等の普及啓発を図るための講座、研修会、講演会等の開催
- (2) 防災知識等の普及啓発を図るための冊子、リーフレット等の作成、配布
- (3) その他協働実施により効果的な推進を図ることが期待できる防災啓発活動
- (4) 市町村、自主防災組織、学校、企業、各種団体等から、防災啓発活動について協力依頼があった場合、必要に応じてそれぞれから協力を要請できるなどを実施する。これらの防災啓発活動の効果的な推進を図るため、随時、情報交換、意見交換等を行う。

### 3 あいち防災リーダー会一泊研修の旅行記

広報部長 藤井 芳宏

7月6日(金)・7日(土)参加者46名で千葉県浦安市並びに東京都消防署本所防災館の見学のため、朝8時に名古屋駅をチャーターバスで出発した。バスの中では参加者の参加目的や近況の活動内容の紹介、東日本大震災のDVDなどを見たり談笑したりした。

#### (1) 浦安市の液状化視察

14時頃、浦安市役所に到着し、市職員により液状化の被害概要やその原因、復旧内容について、説明を受け、その後市内の一部を視察した。

浦安市の成り立ちは、もともとの市街地元町と中町（第1期埋立地昭和50年11月完）、新町（第2期埋立地昭和56年3月完）であり、今回の被害は殆どが中町と新町に集中した。

被害総額は約734億円 中町・新町を中心に水道管破裂が102か所、断水世帯は概ね37,000世帯であった。土砂が噴出した所の陥没が起き空洞化したり、壊れた埋設管や水道管に土砂が入ってしまったり、電柱やバス停の支柱が倒れたりした。元町でも液状化の被害はなかったが地震の被害はあった（瓦が落ちた、塀が壊れた等）

液状化の原因は、中町・新町の埋立を海砂を使用したため、殆どが隣に流れる旧江戸川の川砂でサラサラであった。

住宅の被害は、家が傾いたものが多く、他に下水管がずれて砂が入りトイレが使用できなくなったことの影響が大きかった。

ライフライン復旧は、電気は5日ほど、ガス3/30、上水道は4/6、下水道は4/15であった。公共施設の復旧費は約300億円、27年度までに実施予定。

市内の液状化現場は殆ど修復されていた。液状化で噴出した土砂の処理場を見学した。

宿泊は、東京都台東区のホテル鷗外荘でした。



[浦安市街地埋立状況]

## (2) 東京都消防署本所防災館

2日目は午前中、スカイツリーの回りを巡回、浅草浅草寺周辺で散歩した。午後0時半に本所防災館に到着した。

施設の構成は、4階防災シアター、3階水害体験・液状化実験・暴風雨体験、2階煙体験・消火体験等、1階地震体験となっていた。



[水害時家の扉を開く体験]



[水害時車の扉を開く体験]



[暴風雨体験]

水害体験では、家の扉が水に浸かった時、20cm・30cm・40cmの夫々の場合、自分の力で開けることができるかを体験した。車の扉でも同様の体験をした。40cmではビクともしなかった。

暴風雨体験では、風速30mの暴風の場合、風速30mと豪雨（1時間雨量30mmと50mm）を夫々体験した。1時間雨量50mmでは視界が相当悪く車の運転は危険であると感じた。これらの施設では、愛知県内の防災センターにはないものが多くあった。非常にうらやましく思いました。

浦安市の液状化視察及び本所防災館の見学は大変参考になりました。本部研修部に多謝。

## 4 一宮聳学校防災訓練に参加して

一宮支部 石垣 辰夫

愛知県立一宮聳学校防災訓練の防災啓発体験コーナーは、6年前からあいち防災リーダー会一宮支部がお手伝いしてきました。本年も平成24年9月5日（水）午前10時に会員8名が同校体育館に集合し、防災啓発体験コーナーの設営を行ないました。役割分担を決め各コーナーに夫々配置につき、11時生徒（幼児部・小学部・中学部・高等部）・父兄・先生を館内に迎え入れました。

校長先生と伊藤善之一宮支部長の挨拶のあと生徒さんは各コーナーを回り防災啓発体験を实践致しました。

### 防災啓発体験コーナー

- |           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| 1 防災食品    | 試食とカンパン配付                     |
| 2 防災ぬりえ   | 2種類の中から1枚を選んで書き込み、ぬりえは児童に渡す。  |
| 3 ストローハウス | ストローとゼムピンでハウスを組み立てる。作品は生徒に渡す。 |



[防災ぬりえ]

- 4 簡易トイレ・非常持出し袋展示 会員が説明を行う。
- 5 非常持出品クイズ クイズ用紙に回答してもらう。
- 6 防災クイズ クイズ用紙に回答してもらう。
- 7 家具転倒防止モデルと写真展示 会員が説明等を行う。家具転倒防止チラシ配付
- 8 防災ビデオ放映（大型スクリーン）

各コーナーは、会員が説明及び指導役を担当し、先生の誘導もあり啓発活動がスムーズに展開できました。生徒さんには、防災の必要性が認識できたものと思います。

※一宮聳学校は昭和29年（1954）設立、県内5校の内の1つです。尾張部・知多地区から生徒が登校されています。

## 5 清須市総合防災訓練に参加して

清須支部 吉田陽一

9月1日（土）清須市新川グランド及び本庁舎において、8：30開会で市総合防災訓練が行われた。大人750名、中学生65名程参加のもと支部会員8名が参加した。

総合防災訓練では 市職員非常呼集訓練 災害対策本部設置 県との通信訓練 被害情報収集 地区ブロックによる避難訓練 避難所開設 救護所開設 地域福祉避難所開設 給水 中学生による土のうづくり 自衛隊・防災協力会による倒壊家屋からの脱出 消防署による高所ビルからの救出 赤十字奉仕団による炊き出し 社協によるボランティア本部設置 消防団による消火 などが11時まで実施された。

当支部は、防災啓発として パックぶるる 紙芝居 むりえ 心肺蘇生・AED 避難所運営ゲーム クロスロード 防災カードゲーム 無 災害用トイレ 紙スリッパ を展示設営を行った。

支部として初めての参加でしたが、支部の幟を立てて啓発できたことは、市民へのよいPRになったと思います。



[展示コーナー]

## 6 震災に備えて 北名古屋市総合防災訓練

北名古屋支部 坂口紀生

8月26日（日）午前9時～11時 総合訓練が実施された。

白木小学校体育館でHUG（避難所運営）訓練実施

災害ボランティア支援センターを設営し、午前8時半北名古屋市では東海、東南海地震の発生を想定した防災訓練が実施されました。その日は猛暑でしたが、社会福祉協議会の指導で運動場にテント張りから 始まり設営と同時に災害対策本部の伝達により、災害ボランティア支援センターを立ち上げて駆けつけ ボランテ



[ヘリコプター吊り上げ訓練]

ィアの受け入れを始め、班ごとに人の派遣を行った。又別の会場、体育館では避難所HUGの実施 各地区の自治会の判別に分かれて、避難所に来る人達の対応の仕方を会場内敷地図を検討しながら対策をしました。そこで道路状況の事が一番に問題になりました。

今回参加して感じた事は、いざと云うとき命を守るのは、自分自身の行動と避害者にならないための心構えと防災知識を身につける事と思いました。

## 7 扶桑町防災訓練

扶桑支部 丸山 豊

あいち防災リーダー会扶桑支部(以下、扶桑支部と略称)は本年3月に発足しました。

9月1日(土) 9:30~11:30 扶桑町立扶桑東小学校における扶桑町防災訓練への参加は扶桑支部の扶桑町に対する実質的なデビューとなりました

この度の参加については、防災訓練への参加の意向を文書にて6月に扶桑町総務課に申し入れ、8月に扶桑町長名にて正規に協力依頼を受けたものです。

参加にあたっては、事前に防災訓練に展示・紹介する内容を検討・打ち合わせを行い、展示品については扶桑支部には手持ちがないため、犬山支部と江南支部に協力を頂くことにしました。

当日の展示内容の概要を以下に示します。

- ▶非常持出品のサンプル および 家具転倒防止用品のサンプル
- ▶非常持出品収納リュックの重さを体験するためのサンプル
- ▶防災ナマズン塗り絵(子供対象 ラミネートフィルムにて下敷きに加工)
- ▶防災・減災に関する各種パンフレット  
(家具転倒防止のための手作りパンフレットを含む)
- ▶防災・減災スローガン横断幕 ならびに あいち防災リーダー会西尾張ブロックのぼり



防災ナマズン



非常持出品収納リュックの思いがけない重さに驚く様子に、笑いを誘われる周囲の人々



防災ナマズンの塗り絵を楽しむ子供とお母さん達、色使いがそれぞれ違って楽しい



防災・減災グッズコーナーを訪れる人達 説明する人、質問する人で賑やか

あいち防災リーダー会の扶桑町防災訓練への展示は初めてと云うこともあって、展示ブースを訪れる来場者は開幕当初は少なかったものの、懸命の来場者への呼びかけが奏して徐々に増加、特に非常持出品リュックの重さを体験するコーナーでは、背中に食い込む意外な重さに驚く体験者が続出、周囲の人の励ましを受け展示ブース周辺を歩く人もいて盛況。また、防災ナマズンの塗り絵コーナーでは子供と若いお母さん達が背中を並べて塗り絵に夢中になり、下敷きに加工してもらって「ありがとう」の言葉を残して去っていく様子は微笑ましいものがありました。

扶桑会の構成員は大木代表を初め 6 人であるため、この度の防災訓練には犬山支部と江南支部から数多くの応援を戴き、扶桑会のデビューを無事に終えることができました。ご支援いただいた皆様にこの場を借りて暑くお礼申し上げます。

## 8 防災よもやま話 No.37 地盤が関わる災害について 名古屋大学大学院教授 福和伸夫

APLA の皆さん、こんにちは。

新年度に入って以降、愛知・岐阜・三重・静岡の 4 県と名古屋・静岡・浜松の 3 市、岐阜大・三重大・静岡大・名古屋大が共催した「4 県 3 市 & 4 大学の連携シンポ」、消防団が中心になって開催した「にっぽんどまんなか安心安全防災フェア」、あいち防災協働社会推進協議会が中心となって実施し愛知県知事・名古屋市長・愛知県商工会議所連合会会長・中部経済連合会会長・名古屋大学総長・防災のための愛知県ボランティア連絡会代表者・なごや災害ボランティア連絡会代表が調印した「防災・減災カレッジのキックオフイベント」、消防団を中心にした「どまんなか安全安心フェア」、名古屋大学減災連携研究センターの発足記念シンポ、高校生防災セミナー、気象台の防災講演会、前述の防災・減災カレッジ、被災地のミュージカル NaNa5931 など、豊田講堂を中心に数多くの防災イベントを実施してきました。いつも、多くの方々が参加いただき感謝しております。これらの行事を支える方も毎回異なっており、私たちの地域の力強さを感じています。秋にはさらに様々な行事が続くと思います。どうぞ、これからも、宜しく願い申し上げます。

さて、本日は、地盤災害について、お話をしたいと思います。多分、この原稿が届くときには、南海トラフ巨大地震の被害想定結果が公表され、世の中はそのこと一色になっていると思いますが、私がこの原稿を書いている時点では、結果が公表されていませんので、被害予測結果について触れることはできません。とんでもなく凄まじい結果になっていると思いますが、今回はご容赦ください。

### (1) 地盤はどうやってできる？

東日本大震災で話題となった地盤災害には、液状化（津波の転倒、浦安、旧河道、水郷）の被害、宅地造成地の被害、ため池の堤防の決壊、亜炭鉱の陥没、などの被害があります。また、地盤の硬軟により揺れの強さが異なるため、軟弱な地盤で大きな被害が出たり、それぞれの地盤ごとに揺れやすい周期があるため、建物の周期と近接したことによる共振の問題などもありました。これらの災害の発生は地盤のできかたによって左右されます。

一般に、新しく堆積した地盤ほど、十分に締め固まっていなかったために軟弱です。新しく堆積した場所は、かつての海や湖沼、河川の周辺などです。これらの水辺は低地にありますから、結果として、低地

の地盤は軟弱で、また地下水位も浅い位置にある場合が多くなります。川の流れを見れば分りますが、上流部は急流で下流部ではゆったり流れます。流れが速いときには、軽い粒子は水と共に流れ、重い石ころだけが沈みます。このため、河川では上流部には粒度の大きな岩や礫が、下流部には小さな砂が堆積することになります。さらに、湖沼や海の中は静かですから、泥のような微粒子でも沈みやすくなります。このように、上流部から下流部にかけて堆積している地盤の様子は変化しています。木曾川で言うと、犬山や江南では、扇状地的な地形で礫が多く、それが海部の方に行くと徐々に砂が細かくなり、更に下流では泥っぽくなっていきます。

ただし、時代によってこの堆積環境は変動します。私たちの地球では、氷河期と間氷期が繰り返してきました。氷河期には、寒いので南極や北極の氷が厚くなり、海が大きく後退します。このため、平野部に加え伊勢湾・三河湾なども陸化し、川は谷を深く刻みながら急流で流れます。このため、この時期には、粒の大きな地層（礫層や砂層）が堆積します。一方、地球が温暖化する間氷期には、海水面が上昇し、平野部全体が海水に覆われ、この間には粒の小さな地層（粘土層）が堆積します。縄文時代の6千年ほど前には、海水面は今よりも2~3m高く、濃尾平野では大垣や犬山くらいまで海が進入していたようです。このことは、縄文時代の貝塚の位置を見てみるとよく分ります。一方、弥生貝塚の位置をみてみると、弥生時代には、一宮当たりまで海があったようです。さらに、江戸時代初期の海岸線は概ね、関西本線くらいの位置だったようです。徐々に、海が陸化してきていることが分かります。

江戸時代には、人口増に伴って、塩田や新田の開発が盛んに行われ、干拓が繰り返されました。さらに、明治以降は、湾岸部の埋立てが進みました。干拓の際には、遠浅の海などに堤防を築き、干潮時に水門を開いて海水を出し、満潮時に水門を閉じて干上がらせて陸化します。このため、干拓地は、海水面よりも土地が低くなることが多く、地盤も軟弱になりがちです。一方で、埋立地は、土砂を積み上げて作りますから、海水面よりも土地は高くなります。また、十分に管理して行われた埋立て工事では、地盤も比較的しっかりしています。ちなみに、東日本大震災では、広域に液状化した浦安の中で、液状化対策をしっかりとっていたディズニーランドでは液状化の被害はなかったとされています。

よく、軟弱な地盤のことを沖積地盤と言います。これは、地球の年代を地質の堆積年代で区別するためです。一番最近の時代は、新生代と呼ばれていて、新生代の中に、第四紀と第三紀があり、さらに最近の第四紀は、完新世と更新世に分かれています。完新世のことを以前は沖積世、更新世のことを洪積世と呼んでいました。完新世は一万年くらい前までの時代で、縄文時代くらいに対応し、更新世は200万年くらい前までの時代で、概ね人類が登場したところに相当します。これで、名古屋の堀川以西を沖積低地、熱田台地を洪積台地、東部丘陵を洪積丘陵と呼ぶ理由が分っていただけたと思います。

## （2）液状化

さて、前置きが長くなってしまいましたが、このような地盤に関わる様々な災害があります。まずは、最も注目されたのは、液状化です。なかでも、震源から遠く離れた東京湾岸の住宅地での液状化の被害は、頻繁に報じられました。特に浦安市の被害は甚大でした。埋立地や、旧河道、かつての湖沼を埋めた場所などで広範囲に液状化し、家屋の傾斜・沈下、周辺地盤の沈下、橋と道路の段差、マンホールな



どの浮上などを行った被害が発生しました。また、津波来襲地域では、液状化によって車が走行できなくなって避難が遅れたり、液状化で杭が抵抗力を失って、津波によって鉄筋コンクリートの建物が転倒したりした様子なども、テレビ等で報じられました。

液状化が発生しやすいのは、地下水位面が浅い緩く堆積した砂地盤です。砂地盤は、砂粒と間隙とできていて、地下水位面以下では、間隙は水で満たされています。通常は、間隙水は、砂粒の間隙を移動することで水圧が高まることはなく、砂粒同士が互いに噛み合うことで、力を受け渡し、建物などを支えています。ですが、地震で揺れると、砂粒がガサガサと動くことで、より低いところへ移動し、間隙を減らして締め固まろうとします。ちょうど、容器に袋からコーヒー豆やグラニュー糖を移すときに、容器が一杯になると、容器を左右に振って、もう少し詰めるのと同じです。揺すっている揺れが強く、揺する時間が長いほどよく沈みます。このように、砂のようなものは、振動をうけると砂粒と砂粒の間隙が減少し、容積が減る効果があり、継続時間の長い強い地震動ほど良く容積が減ります。地震によって、間隙が瞬間的に小さくなると、水はすぐに移動することができず、急速に圧力（水圧）が高まります。そうすると、砂粒同士の間に噛み合っていた力よりも水圧の方が高くなってしまい、砂粒がバラバラになって、水に浮遊し、泥水になってしまいます。これが液状化です。

ちょっと難しかったかもしれませんが、要は、地下水位に満たされた緩い砂地盤が要注意ということです。砂層の上に粘土層が乗っている場合には、砂層が液状化し、圧力が高まって、粘土層の中に弱い場所を見つけて、そこを液体化した泥水が通って、地表から、噴水のように泥水を噴き出します。これを「噴砂」と言います。また、液状化する場所の地表が傾いている場合には、液体は低い方に流れますから、地盤全体が横方向に移動してしまいます。これを「側方流動」と呼びます。

液状化の対策は、地盤を締め固めること、地下水位を低くすること、地盤にセメントなどを混ぜて改良することなどになりますが、このような液状化対策は大規模で対策費用も多くかかります。このため、マンションなどでは、固い地盤まで、杭を打って、杭を介して建物を基盤に直接支えることが一般的です。ですが、戸建て住宅では、杭を使うことは滅多にありません。次善の策として行われるのは、基礎を剛強にし、基礎周辺の地盤にセメントなどを混ぜて地盤改良することです。これによって、たとえ液状化で建物が傾いても、建物には被害を生じさせず、地震後にジャッキアップすることで、建物の傾斜を元に戻すことができます。ただし、建物が重いと沈みやすく、建物の重量に偏りがあると傾斜しやすくなりますから、建物の重さ、形状や配置にも気をつけた方が良いでしょう。また、液状化をすると、地中を通っている上下水道やガス管にも被害がでますし、道路もしばらく使えなくなりますから、他地域と比べて、十分な備蓄をしておくことも大事なことだと思います。

### (3) 宅地造成地

仙台市では、人口増加と共に、周辺の丘陵地が宅地造成され、多くの住宅が建てられるようになりました。こういった丘陵地の宅地造成地で、盛土地盤での不同沈下や移動などの地盤災害がありました。人口100万人の仙台市での被災宅地は5,080宅地と言われているので、同様に丘陵地に多数の人が住み、人口が約倍の名古屋ではどうなるのか、多少心配になります。

もともと、丘陵地には凸凹がありますから、造成地を作るときには、尾根を切ったり谷を埋めたりして平らにします。また、斜面の場合には、斜面を削ったり盛り土したりして、斜面を段々畑状に造成をします。こういった場所では、切り土と盛り土が隣り合わせになります。切り土と比べ盛り土の方が軟弱ですから、結果、盛り土側が沈下し、建物が不同沈下して傾くことになります。また、谷を埋めて盛り土造成した宅地は、締まりが緩く地下水が多い場合が多いので、地震の揺れで斜面の下方に滑り落ちたり、地盤が大きく変形したりします。特に、地山と盛り土層の境界面が緩むと大規模に滑りやすくなります。地盤が大きく移動した仙台市太白区緑ヶ丘地区や、青葉区折立地区での大規模地滑り地区はまさしくこういった谷埋め盛り土に相当します。宮城県沖地震のときにも地滑りがあった緑ヶ丘に加え、今回は、宮城県沖地震のときには被害の無かった場所でも地滑りがあったようです。長い間繰り返し揺れたことの影響かもしれません。

### (3) ため池の堤防の決壊

岩手県、宮城県、福島県では約 12,500 箇所のため池のうち、約 1,800 箇所が被災したようです。決壊したのは、福島県の、藤沼湖、青田新池、中池の 3 つのため池で、中でも最も規模の大きなものが、須賀川市の藤沼湖です。ため池をせき止めた藤沼ダムが決壊し、流出した多量の水が下流の集落に達して、死者 7 名、行方不明者 1 名の犠牲者をだしました。このダムは、昭和 24 年 10 月に竣工した、堤高 18.5m、堤長 133.2m のアースダムで、貯水量は 150 万 m<sup>3</sup>でした。

用水や水道が無かった時代、水の確保のため、数多くのため池が作られていました。愛知県下にも東部丘陵、幡豆、知多半島、渥美半島などに約 3000 のため池があります。かつては、名古屋市内にも、名東区や天白区、緑区などを中心に数多くのため池が有りましたが、今ではほとんど無くなってしまいました。池を干上がらせたり、盛り土して宅地にしました。そもそも、ため池は、谷の出口に堤防を作ることによって谷川の水を貯めていた場所ですから、前述の谷埋め盛り土の危険性を内在しているとも言えます。

揺れだけではなく、豪雨などによる土砂災害のことも合わせ、旧来より危険性が指摘されていた急傾斜地の崖崩れの問題も忘れないでおきたいと思います。

### (4) 亜炭鉱の陥没

東北地方にも亜炭鉱が多数あったようで、東日本大震災では、73 か所で亜炭坑道の陥没があったようです。亜炭鉱の採掘終了後、時間が経過し、風化などの影響で弱っていたところに、強い揺れがあって陥没をしたのかもしれませんが。亜炭鉱の問題は、当地でも他人事ではありません。御嵩・多治見から東部丘陵を経て知多半島にかけて、大規模な亜炭鉱が存在します。残念ながら坑道の充填は十分には行われていないのが現状です。どこに亜炭鉱があるのかもよく知られておらず、ときどき、亜炭鉱の陥没のニュースを聞いてびっくりします。最近、かつての亜炭鉱の上にある里山が宅地開発されているように感じられ、大いに気になっています。

亜炭鉱の位置については、地元で長く住むお年寄りの方々はよくご存じのようです。ぜひ、早めに、地元の方々から亜炭鉱のあった場所を聞いておいていただければと思います。

## 9 お知らせ・ 掲示板

### 本部・NPO 法人活動

9月29日	防災フェスタ2012 in テレビ塔	本部
9月29日	第3回講習会（耐震化&家具固定講習会）	本部
10月13日	あいち防災リーダー養成塾 2日目	名古屋大学 NPO 法人
10月28日	あいち防災リーダー養成塾 3日目	岡崎福祉会館 NPO 法人
11月25日	あいち防災リーダー養成塾 4日目	岡崎福祉会館 NPO 法人

### 主な支部活動（\*ブロック支援行事）

*10月6・7日	こうなん市民祭りすいとぴあ	江南支部
10月13日	きてみて体験消防フェア	一宮支部
*10月27・28日	いなざわ福祉祭り	稲沢支部
*11月3日	大口ふれあい祭り	大口支部
*11月23日	ふれあいフェスタ2012	北名古屋支部
11月3日	布袋小合同防災訓練	江南支部
11月4日	前原地区・11月11日橋爪地区	犬山支部
11月17日	第2桜ヶ丘・11月18日 善師野	犬山支部

### 西尾張ブロック研修会

#### 第1回防災カードゲーム「シャッフル」講習

日時 12/15日(土)午前10時～12時

場所 北名古屋市もえの丘（ふれあい広場）

参加人員 40名（5グループ×8名）予定

参加申し込み連絡先 尾関 博（あいち防災リーダー会 西尾張ブロック研修部長）

TEL&FAX 0587-57-8234

携帯TEL 090-8670-4848

E-mail ozeki@inym-gas.ca.jp

#### 編集後記

厳しい暑さも終わり少ししのぎ易くなりました。地域の防災・減災活動にも熱心に参加されておられることと思います。皆様の地域活動の記事をお待ちしております。

広報部